

## おじいちゃん・おばあちゃんに聞いてみよう 昔の田んぼは、どんなかな？

### 1 概要

稲作の方法は、ため池や泥底の水路に水をめぐらせ、周辺の動植物の生態系を上手に利用した農法から、第二次世界大戦以降、生産性を向上させるために強い農薬を使用する農法に変わりました。

その結果、わたしたちの身のまわりには、農薬や化学肥料を使い続けると稲作ができない水田が圧倒的に多くなり、タガメやゲンゴロウなど、水田特有の昆虫たちが見られなくなっています

### 2 ねらい

- ・ 校区の周りの水田での稲作の方法が、昔とどんなに変化し、それによりそこに住む生物がどのように変化してきたかを調べさせます。
- ・ 学校の友達やお年寄りなど、先生以外の人たちと接し、そんな人たちから自分の聞きたいことを聞き取る技術を身につけさせます。

### 3 調査する内容

#### (1) 水路の状態

泥底の水路は、農繁期は水が緩やかに流れ、水草が生え、生き物たちのゆりかごでした。コンクリート舗装がなされると、水草の生える場所がなくなり、流れる水の速度が速くなり、生き物が住み辛くなります。

<モデル生物> メダカ(魚)、コナギ(草)

#### (2) ため池の管理

##### 堤の草刈

ため池の堤は、春と秋にきちんと草刈がなされました。このことにより、ススキなどの草丈の高い強い植物による優占が防止され、きれいな花が咲きました。

<モデル生物> キキョウ(草)

##### 池干し

ため池は、秋から冬に一度干し上げられました。これには、池の中に住むフナやコイをタンパク源として収穫する目的と、池底にたまったヘドロを水田や畑地の肥料として収穫する目的がありました。

<モデル生物> ギンヤンマ(昆虫)

#### (3) 水田周辺

強い農薬が使われずに稲作がなされました。刈り取った稲は「なる」に干されたり、稲を干す目的であぜにクヌギなどの木が植えられていました。

<モデル生物> 水田：タガメ(昆虫)、クヌギ：オオアオイトトンボ(昆虫)

なる：ノビタキ(野鳥)

### 4 調査の手順

- (1) 周辺の水田で稲作を行っている「おじいちゃん・おばあちゃん」たちに、学校にゲストティーチャーとして来てもらいます。
- (2) 概要に書いた水田周辺の環境の状態や、池の堤の草刈や池干しなどの管理が昔行われていたか？今も続けているか？について聞き取りを行います。
- (3) それぞれのモデル生物の写真などを見てもらって、それらの生物が昔いたか？今もいるか？について聞き取りを行います。
- (4) クラス(学年)で討論会を開き、水田と周りの生き物の移り変わりについてまとめ、水田環境について考えます。